

BUSINESS REPORT



株主の皆さまへ 第112期 報告書

2021年12月1日から2022年11月30日まで

津田駒工業株式会社



代表取締役社長 COO 山田茂生

代表取締役会長 CEO 高納伸宏

2021-2023 スローガン



連結業績ハイライト

受注高 37,443 百万円 (前期29,361百万円)	経常損失 (△) △2,583 百万円 (前期△3,605百万円)
売上高 31,189 百万円 (前期27,796百万円)	親会社株主に帰属する当期純損失 (△) △2,567 百万円 (前期△4,495百万円)
営業損失 (△) △2,497 百万円 (前期△3,723百万円)	1株当たり当期純損失 (△) △401.87 円 (前期△703.61円)

(注) △印は、損失を示しています。



「顧客に貢献する会社」を
目指してまいります。

1 第112期の事業環境や業績について、 お聞かせください。

繊維機械事業では、市場は総じて回復傾向にある中、新型エアジェットルーム・ウォータジェットルームやサイジングマシンの販売促進に注力し、受注を拡大いたしました。一方売上では、前期の受注減による生産の減少や購入部品の納期遅れに伴う生産調整により、次期へのずれ込みもあり当初の計画を下回りました。

工作機械関連事業では、期の後半に入り国内市場、海外市場ともに先行き不透明感が出てきたものの、期を通してはおおむね堅調に推移いたしました。

この結果、全体の受注高は37,443百万円（前期29,361百万円）となりました。なお、当期末の受注残高は14,532百万円（前期末8,277百万円）になっております。

一方、売上高は、繊維機械事業が低水準で推移しましたことから31,189百万円（前期27,796百万円）にとどまりました。

損益面では、工作機械関連事業では利益を確保したものの、繊維機械事業で生産・売上が低水準であったことに加え、原材料価格や海上輸送運賃等の急激な高騰に対し、販売価格への転嫁やコストダウン活動が追い付かず、全体では営業損失は2,497百万円（前期 営業損失3,723百万円）、経常損失は2,583百万円（前期 経常損失3,605百万円）となりました。特別利益では、資本政策として政策保有株式の売却を進め、投資有価証券売却益315百万円を計上した一方、特別損失では、希望退職実施に伴う特別加算金170百万円を計上しております。この結果、親会社株主に帰属する当期純損失は2,567百万円（前期 親会社株主に帰属する当期純損失4,495百万円）となりました。

2 繊維機械事業、工作機械関連事業の 動向を教えてください。

繊維機械事業では、一昨年に発表した新型エアジェットルームZAX001neoのモデル工場が各国にて本格稼働を始めており高い評価を頂いています。これにより市場に高生産性と省エネ性能を広く浸透させ市場全体への普及・拡大を加速しております。同じく一昨年に発表しました新型スパンサイジングマシンTTS30Sでも納入実績を積み上げており、高い評価を頂いております。

特に綿織物が盛んなインド市場では、2022年12月にデリーにて開催された国際繊維機械展ITME2022において、織機として世界最高の生産性を示す2300rpm（1分間に2300本のヨコ糸を挿入）での実演を行い、市場に驚きを与えました。設備の近代化を進める政策の後押しもあり成約・受注を大きく伸ばしています。中国市場においては、足元でゼロコロナ政策の転換による混乱が起きていますが、早期の回復が見込まれ、また、環境政策により省エネ・省資源な機械に対する市場要望の高まりがみられ、織機・準備機とも

に受注・引合いの更なる拡大が期待できます。その他の地域では韓国、インドネシア、トルコ、ベトナムからの受注も頂いており、市場の回復を感じ取れています。

工作機械関連事業では、引き続き堅調な受注を確保しています。先行きに不透明感があり、業界の受注予測においても2022年より若干落ちるとされていますが、全体としては大きな落ち込みはないとみています。中国市場では、これまでの牽引役であったEMS関連に陰りが見られるものの、EV関連の引合いが急増しています。昨年には世界3大工作機械見本市のうち、9月に米国（シカゴ）でIMTS2022が、11月に日本（東京）でJIMTOF2022がそれぞれ開催され、工程集約、自動化に対応した新型ダイレクトドライブNC円テーブルや5軸加工に対応した新型マシンバイスを出展しました。すでに販売を開始しており、手ごたえを感じています。インド市場では、繊維機械同様の設備近代化政策を背景にポストチャイナに向けた投資案件が動き出しており、今後の拡大に期待が持てます。

3 事業の立て直しに向けて今期取り組む ことは。

操業を安定させるためには、市場の分散と各市場にマッチした製品の早期投入が不可欠です。

特に繊維機械事業においては、各市場・各織物分野への販促を強化し、ニーズの早期発見に取組むとともにZAX001neoの製品ラインアップの拡充に注力いたします。



大勢の来客でにぎわったITME2022（当社小間）

一方、両事業とも、特に電子部品を中心とする物不足により、生産計画の見直し、代替設計や後付け作業の実施など、通常とは異なる作業を余儀なくされました。

これに対して、生産計画を協力企業の皆さまと共有するとともに、柔軟な生産計画の策定や適正コストの実現のために調達部と生産技術部を統合する組織変更を行いました。また、原材料価格等の変動を素早く売価に反映させるため、基幹システムの情報の活用を推進します。

また、各部門における課題の解決や生産・業務効率の向上を進めるため、昨年後半に全社横断のDXプロジェクトを立ち上げました。このプロジェクトは全社に公開しており、全社員が参加できる形をとっています。

各部門の業務を公開し、部門の課題を全社的な視点から見直し、基幹システムを含め業務に必要な情報を繋げ、無駄のない生産活動を目指します。また、必要な情報をリアルタイムで入手するため、ゴールを社員と共有して業務効率改善のスピードを上げて参ります。



DXプロジェクト キックオフ会議



本社工場 繊維機械組立ライン

4 株主様へのメッセージをお願いします。

4期連続の損失計上となりましたことから、誠に申し訳ありませんが、引き続き期末配当を見送りとさせていただきます。

2023年の社長方針には「顧客に貢献する会社」を目指す、として社内に考え方を示しました。

当社の社是「われわれは つねに最高の品質をめざし 社会に貢献する」への原点回帰とも言えます。

市況が回復する中で、着実に収益を改善することは勿論のこと、変化する社会に“しなやか”に追従することで継続的な収益を確保できるよう、体質改善を図って参ります。

同時に、支えて頂いている協力企業の皆さまとも密接に連携しながら復活に取組んで参ります。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご理解・ご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

事業別の状況

繊維機械事業

受注高	30,617	百万円 (前期23,421百万円)
売上高	24,395	百万円 (前期22,293百万円)
営業損失(△)	△2,179	百万円 (前期△2,504百万円)

工作機械関連事業

受注高	6,825	百万円 (前期5,940百万円)
売上高	6,793	百万円 (前期5,502百万円)
営業利益	825	百万円 (前期29百万円)

連結財務データ

連結貸借対照表 (単位：百万円)

科 目	前 期 令和3年11月30日現在	当 期 令和4年11月30日現在
資 産 の 部		
流動資産	20,302	21,648
固定資産	12,022	11,930
有形固定資産	9,001	8,396
無形固定資産	612	468
投資その他の資産	2,408	3,065
資 産 合 計	32,325	33,578
負 債 の 部		
流動負債	18,566	23,095
固定負債	8,507	7,319
負 債 合 計	27,073	30,414
純 資 産 の 部		
株主資本	4,663	2,039
その他の包括利益累計額	476	1,007
非支配株主持分	112	116
純 資 産 合 計	5,252	3,164
負債純資産合計	32,325	33,578

連結損益計算書 (単位：百万円)

科 目	前期 令和 2年12月 1日から 令和 3年11月30日まで	当期 令和 3年12月 1日から 令和 4年11月30日まで
売上高	27,796	31,189
営業損失 (△)	△3,723	△2,497
経常損失 (△)	△3,605	△2,583
税金等調整前当期純損失(△)	△4,311	△2,437
当期純損失 (△)	△4,492	△2,562
親会社株主に帰属する当期純損失 (△)	△4,495	△2,567

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

会社概要

本社所在地	〒921-8650 石川県金沢市野町5丁目18番18号	資本金	123億1,654万円
設立	昭和14年12月30日（創業 明治42年3月）	従業員	838名
役員の状況（令和5年2月末日現在）			
代表取締役会長CEO	高 納 伸 宏	TSUDAKOMA Europe s.r.l. 代表取締役	
代表取締役社長COO	山 田 茂 生	法務・コンプライアンス室担当	
取締役	北 野 浩 司	管理部門統括、総務・人事部長、輸出管理室長、ふぁみーゆツダコマ株式会社 代表取締役	
取締役	寺 田 武 志	繊維機械事業統括、TSUDAKOMA SERVICE INDIA PRIVATE LIMITED 代表取締役、	
取締役	大 河 哲 史	津田駒機械設備（上海）有限公司 董事長、津田駒機械製造（常熟）有限公司 董事長	
取締役（社外）	越 馬 進 治	工作機械関連事業統括、工機販売部長、航空機部品推進室長、ツダコマテクノサポート株式会社 代表取締役	
取締役（社外）	潮 田 谷 博		
常勤監査役	澁 谷 史 進		
監査役（社外）	梶 政 隆	（カジナイロン株式会社 代表取締役社長）	
監査役（社外）	菱 沼 捷 二		
相談役	浅 井 俊 和	製造第1部長	
執行役員	室 井 哲 也	工機業務部長	
執行役員	林 若 森	繊維機械販売部担当	
執行役員	岩 西 村	経営企画室長、知財・情報管理部長、法務・コンプライアンス室長	
執行役員	北 川 登 志	コンポジット機械部長	
執行役員	松 任 宏 幸	ツダコマ・ゼネラル・サービス株式会社 代表取締役	
顧問	坂 井 一 仁	株式会社 T-Tech Japan 代表取締役	
顧問	大 森 充	共和電機工業株式会社 代表取締役	

株式の概況（令和4年11月30日現在）

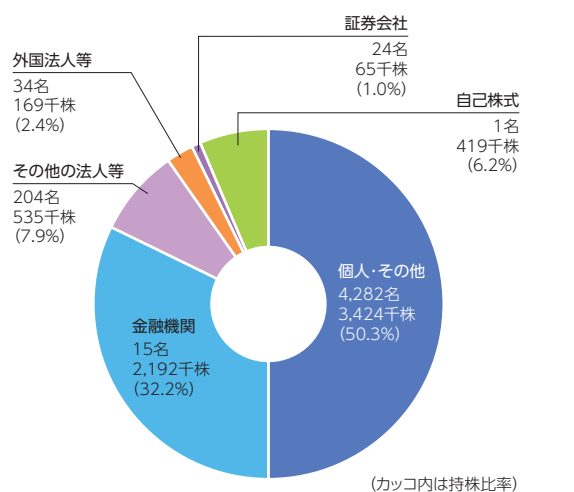
株式の状況	
①発行可能株式総数	19,900,300株
②発行済株式の総数	6,807,555株
（内自己株式の数）	（419,243株）
③単元株式数	100株
④株主数	4,560名

大株主の状況

株 主 名	持株数（千株）
津田駒取引先持株会	1,198
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	710
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	324
明治安田生命保険相互会社	280
株式会社北陸銀行	258
株式会社北國銀行	232
ツダコマ従業員持株会	194
東京海上日動火災保険株式会社	177
三井住友海上火災保険株式会社	142
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	112

（注）当社の保有する自己株式419千株は上記表には含んでおりません。

株式の分布状況





株主メモ

事業年度	毎年12月1日から翌年11月30日まで
基準日	定時株主総会・期末配当 毎年11月30日 中間配当 毎年5月31日
定時株主総会	毎年2月
公告方法	当社ホームページ上に掲載
上場証券取引所	東京証券取引所（スタンダード）
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
（電話照会先）	TEL 0120-782-031（フリーダイヤル） 受付時間 9:00～17:00（土日休日を除く）

ホームページのご案内

<https://www.tsudakoma.co.jp/>

